

◎エネルギー効率及び関係する環境上の側面に関するエネルギー憲章に関する議定書

(略称) エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

平成	六年十二月	十七日	リスボンで作成	
平成	十年	四月	十六日	効力発生
平成	十四年	七月	五日	国会承認
平成	十四年	十月二十五日	受諾の閣議決定	
平成	十四年	十月二十五日	受諾書寄託	
平成	十四年	十月	三十日	公布(条約第一五号)
平成	十四年	十月	三十日	告示(外務省告示第四〇二号)
平成	十四年十一月二十四日			我が国について効力発生

目次

ページ

前文	.....
第一部序	.....
第一条 議定書の適用範囲及び目的	.....
第二条 定義	.....
第二部 政策上の原則	.....
第三条 基本原則	.....
第四条 責任の分担及び調整	.....

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

第 五 条	戦略及び政策目標	.....
第 六 条	資金供与及び資金上の奨励措置	.....
第 七 条	エネルギー効率の高い技術の促進	.....
第 八 条	国内計画	.....
第 三 部	国際協力	.....
第 九 条	協力の分野	.....
第 四 部	管理上の措置及び法的措置	.....
第 十 条	憲章会議の役割	.....
第 十 一 条	事務局及び財政	.....
第 十 二 条	投票	.....
第 十 三 条	エネルギー憲章に関する条約との関係	.....
第 五 部	最終規定	.....
第 十 四 条	署名	.....
第 十 五 条	批准、受諾又は承認	.....
第 十 六 条	加入	.....
第 十 七 条	改正	.....
第 十 八 条	効力発生	.....
第 十 九 条	留保	.....
第 二 十 条	脱退	.....
第 二 十 一 条	寄託者	.....
第 二 十 一 条	正文	.....
末 文		.....

附  
属  
書  
.....

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

前  
文

エネルギー効率及び関係する環境上の側面に関するエネルギー憲章に関する議定書

前文

この議定書の締約国は、

千九百九十一年十二月十七日にヘーグで署名された欧州エネルギー憲章に関するヘーグ会議の結論文書によって採択された欧州エネルギー憲章並びに特にエネルギー効率及び関係する環境保護の分野において協力が必要であるという同憲章において示された宣言を考慮し、

千九百九十四年十二月十七日から千九百九十五年六月十六日まで署名のために開放されているエネルギー憲章に関する条約を考慮し、

エネルギー効率及びエネルギー・サイクルの環境上の側面に関連する国際機関及び国際的な場において行われている作業に留意し、

エネルギー効率のための措置であつて費用対効果の大きいものの実施によつてエネルギー供給の安定性が向上し並びに著しい経済上及び環境上の利益が得られること並びにこれらのことが経済の再編成及び生活水準の向上にとって重要であることを認識し、

エネルギー効率の向上がエネルギー・サイクルにおける環境上の悪影響（特に、地球温暖化及び酸性化）を軽減することを認識し、

市場における競争が可能な限りエネルギーの価格に反映されるべきであることを確信し、市場指向型の価格の形成（特に、環境上の費用及び利益の価格への一層十分な反映）を確保し、並びにこのような価格形成がエネルギー効率及びこれに関連する環境保護の進展に不可欠であることを認識し、

エネルギー効率のための措置を促進し及び実施するに当たつて民間部門（中小企業を含む。）が不可欠の役割を果たすことを評価し、並びにエネルギー効率に関する経済的に実行可能な投資のための有利な制度上の枠組みを確保することを意図し、

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

ENERGY CHARTER PROTOCOL ON ENERGY EFFICIENCY  
AND RELATED ENVIRONMENTAL ASPECTS

PREAMBLE

THE CONTRACTING PARTIES to this Protocol,

Having regard to the European Energy Charter adopted in the Concluding Document of the Hague Conference on the European Energy Charter, signed at The Hague on 17 December 1991; and in particular to the declarations therein that cooperation is necessary in the field of energy efficiency and related environmental protection;

Having regard also to the Energy Charter Treaty, opened for signature from 17 December 1994 to 16 June 1995;

Mindful of the work undertaken by international organizations and fora in the field of energy efficiency and environmental aspects of the energy cycle;

Aware of the improvements in supply security, and of the significant economic and environmental gains, which result from the implementation of cost-effective energy efficiency measures; and aware of their importance for restructuring economies and improving living standards;

Recognizing that improvements in energy efficiency reduce negative environmental consequences of the energy cycle including global warming and acidification;

Convinced that energy prices should reflect as far as possible a competitive market, ensuring market-oriented price formation, including fuller reflection of environmental costs and benefits, and recognizing that such price formation is vital to progress in energy efficiency and associated environmental protection;

Appreciating the vital role of the private sector including small and medium-sized enterprises in promoting and implementing energy efficiency measures, and intent on ensuring a favourable institutional framework for economically viable investment in energy efficiency;

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

商業的な形態による協力が、政府間の協力（特に、エネルギー政策の作成及び分析に関する分野並びにエネルギー効率を高めるために不可欠であるが民間による資金供与には適しないその他の分野におけるもの）によって補完されることを必要とすることがあることを認識し、

エネルギー効率及び関係する環境保護の分野において協力的かつ協調的な措置をとることに並びに可能な限り経済的かつ効率的にエネルギーを使用するための枠組みについて定める議定書を採択することを希望して、

次のとおり協定した。

第一部 序

第一条 議定書の適用範囲及び目的

(1) この議定書は、重要なエネルギー源としてエネルギー効率を高め及びその結果としてエネルギー体系における望ましくない環境上の影響を軽減するための政策上の原則を定める。さらに、この議定書は、エネルギー効率に関する計画の作成についての指針を定め、協力の分野を示し、及び協力的かつ協調的に活動を行うための枠組みを定める。このような活動は、エネルギーの探査、生産、転換、貯蔵、輸送、分配及び消費を含むものとし、経済上のいずれの部門についても関係を有するものである。

(2) この議定書の目的は、次のとおりとする。

(a) エネルギー効率に関する政策であって持続可能な開発に適合するものを促進すること。

Recognizing that commercial forms of cooperation may need to be complemented by intergovernmental cooperation, particularly in the area of energy policy formulation and analysis as well as in other areas which are essential to the enhancement of energy efficiency but not suitable for private funding; and

Desiring to undertake cooperative and coordinated action in the field of energy efficiency and related environmental protection and to adopt a Protocol providing a framework for using energy as economically and efficiently as possible:

HAVE AGREED AS FOLLOWS:

PART I

INTRODUCTION

ARTICLE 1

SCOPE AND OBJECTIVES OF THE PROTOCOL

(1) This Protocol defines policy principles for the promotion of energy efficiency as a considerable source of energy and for consequently reducing adverse Environmental Impacts of energy systems. It furthermore provides guidance on the development of energy efficiency programmes, indicates areas of cooperation and provides a framework for the development of cooperative and coordinated action. Such action may include the prospecting for, exploration, production, conversion, storage, transport, distribution, and consumption of energy, and may relate to any economic sector.

(2) The objectives of this Protocol are:

(a) the promotion of energy efficiency policies consistent with sustainable development;

定  
義

(b) 生産者及び消費者に対し可能な限り経済的、効率的かつ環境上適正にエネルギーを使用するよう促すための枠組みを、特に、効率的なエネルギー市場を形成し並びに環境上の費用及び利益を「層十分に価格に反映させることを通じて、創設すること。

(c) エネルギー効率の分野における協力を促進すること。

第一條 定義

この議定書において、

(1) 「憲章」とは、千九百九十一年十二月十七日にヘーグで署名された欧州エネルギー憲章に関するヘーグ会議の結論文書によって採択された欧州エネルギー憲章をいう。当該結論文書への署名は、憲章への署名とみなす。

(2) 「締約国」とは、この議定書に拘束されることに同意し、かつ、自己についてこの議定書の効力が生じている国又は地域的な経済統合のための機関をいう。

(3) 「地域的な経済統合のための機関」とは、国によって構成される機関であつて、この議定書が規律する事項を含む特定の事項に關し当該国から権限（当該特定の事項に關して、当該国に対して拘束力を有する決定を行う権限を含む。）の委譲を受けたものをいう。

(4) 「エネルギー・サイクル」とは、エネルギーに関する一連の活動の全体をいい、各種のエネルギーの調査、生産、転換、貯蔵、輸送、分配及び消費に関連する活動、廃棄物の処理及び処分並びにこれらの活動の停止又は終了であつて有害な環境上の影響を最小にとどめるためのものを含む。

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

(b) the creation of framework conditions which induce producers and consumers to use energy as economically, efficiently and environmentally soundly as possible, particularly through the organization of efficient energy markets and a fuller reflection of environmental costs and benefits; and

(c) the fostering of cooperation in the field of energy efficiency.

ARTICLE 2

DEFINITIONS

As used in this Protocol:

(1) "Charter" means the European Energy Charter adopted in the Concluding Document of the Hague Conference on the European Energy Charter signed at The Hague on 17 December 1991; signature of the Concluding Document is considered to be signature of the Charter.

(2) "Contracting Party" means a state or Regional Economic Integration Organization which has consented to be bound by this Protocol and for which the Protocol is in force.

(3) "Regional Economic Integration Organization" means an organization constituted by states to which they have transferred competence over certain matters a number of which are governed by this Protocol, including the authority to take decisions binding on them in respect of those matters.

(4) "Energy Cycle" means the entire energy chain, including activities related to prospecting for, exploration, production, conversion, storage, transport, distribution and consumption of the various forms of energy, and the treatment and disposal of wastes, as well as the decommissioning, cessation or closure of these activities, minimizing harmful Environmental Impacts.

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

- (5) 「費用対効果」とは、一定の目的を最小の費用によって達成すること又は一定の費用によって最大限の利益をもたらすことをいう。
- (6) 「エネルギー効率の向上」とは、生産に必要なエネルギーの量を減少させる一方で、生産における質又は性能を低下させることなく物品又はサービスの同一単位の生産を維持するように行動することをいう。
- (7) 「環境上の影響」とは、ある一定の活動が環境（人の健康及び安全、動植物、土壌、空気、水、気候、景観並びに歴史的建造物その他の物理的構造物又はこれらの要素の間の相互作用を含む。）に及ぼすあらゆる影響をいう。「環境上の影響」には、これらの要素の変化が文化遺産又は社会経済状況に及ぼす影響を含む。

第二部 政策上の原則

政策上の原則  
基本原則

第三条 基本原則

- 締約国は、次の原則を指針とする。
- (1) 締約国は、エネルギー効率に関する政策及び法令を作成し及び実施するに当たり、相互に協力し、適当な場合には、相互に援助する。
- (2) 締約国は、エネルギー効率に関する政策及び適当な法令上の枠組みであって、特に次のことを促進するためのものを確立する。
- (a) 市場機構の効果的な運営（特に、市場指向型の価格の形成並びに環境上の費用及び利益の価格への一層十分な反映）
- (b) エネルギー効率に関する障害の削減及びこの削減を通じた投資の促進
- (c) エネルギー効率に関する提案に資金供与を行うための制度

- (5) "Cost-Effectiveness" means to achieve a defined objective at the lowest cost or to achieve the greatest benefit at a given cost.

- (6) "Improving Energy Efficiency" means acting to maintain the same unit of output (of a good or service) without reducing the quality or performance of the output, while reducing the amount of energy required to produce that output.

- (7) "Environmental impact" means any effect caused by a given activity on the environment, including human health and safety, flora, fauna, soil, air, water, climate, landscape and historical monuments or other physical structures or the interactions among these factors; it also includes effects on cultural heritage or socio-economic conditions resulting from alterations to those factors.

PART II

POLICY PRINCIPLES

ARTICLE 3

BASIC PRINCIPLES

Contracting Parties shall be guided by the following principles:

- (1) Contracting Parties shall cooperate and, as appropriate, assist each other in developing and implementing energy efficiency policies, laws and regulations.
- (2) Contracting Parties shall establish energy efficiency policies and appropriate legal and regulatory frameworks which promote, inter alia:
- (a) efficient functioning of market mechanisms including market-oriented price formation and a fuller reflection of environmental costs and benefits;
- (b) reduction of barriers to energy efficiency, thus stimulating investments;
- (c) mechanisms for financing energy efficiency initiatives;

- (d) 教育及び啓発
- (e) 技術の普及及び移転
- (f) 法令上の枠組みの透明性
- (3) 締約国は、エネルギー・サイクル全体にわたって十分にエネルギー効率の利益が得られるよう努力する。このため、締約国は、環境上の側面に妥当な考慮を払いつつ、その権限の範囲内で可能な限り、費用対効果及び経済効率に基づいたエネルギー効率に関する政策及び協力的又は協調的な措置を作成し及び実施する。
- (4) エネルギー効率に関する政策には、従前の慣行の調整に係る短期の措置及びエネルギー・サイクル全体にわたるエネルギー効率の向上に係る長期の措置の双方を含む。
- (5) 締約国は、この議定書の目的を達成するために協力するに当たり、締約国間において悪影響及びその軽減のための費用に相違があることを考慮する。
- (6) 締約国は、民間部門が不可欠の役割を果たすことを認識する。締約国は、エネルギー事業者、責任のある当局及び専門的な機関による措置並びに産業界と行政官庁との間の緊密な協力を奨励する。
- (7) 協力的又は協調的な措置については、環境の保護及び改善を目的とする国際協定であつてこの議定書の締約国が締約国であるものにおいて採択されている原則を考慮する。
- (8) 締約国は、適当な国際機関その他の機関の活動及び専門的知識を十分に利用するものとし、重複を避けるよう留意する。

## エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

- (d) education and awareness;
- (e) dissemination and transfer of technologies;
- (f) transparency of legal and regulatory frameworks.
- (3) Contracting Parties shall strive to achieve the full benefit of energy efficiency throughout the Energy Cycle. To this end they shall, to the best of their competence, formulate and implement energy efficiency policies and cooperative or coordinated actions based on Cost-Effectiveness and economic efficiency, taking due account of environmental aspects.
- (4) Energy efficiency policies shall include both short-term measures for the adjustment of previous practices and long-term measures to improve energy efficiency throughout the Energy Cycle.
- (5) When cooperating to achieve the objectives of this Protocol, Contracting Parties shall take into account the differences in adverse effects and abatement costs between Contracting Parties.
- (6) Contracting Parties recognize the vital role of the private sector. They shall encourage action by energy utilities, responsible authorities and specialised agencies, and close cooperation between industry and administrations.
- (7) Cooperative or coordinated action shall take into account relevant principles adopted in international agreements, aimed at protection and improvement of the environment, to which Contracting Parties are parties.
- (8) Contracting Parties shall take full advantage of the work and expertise of competent international or other bodies and shall take care to avoid duplication.



エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

第四条 責任の分担及び調整

責任の分  
担及び調  
整

締約国は、エネルギー効率に関する政策が、自国の責任のあるすべての当局の間で調整されることを確保  
するよう努力する。

第五条 戦略及び政策目標

戦略及び  
政策目標

締約国は、エネルギー効率の向上を図り及びその結果としてエネルギー・サイクルの環境上の影響を軽減  
するため、自国の固有のエネルギー事情との関係において適切な戦略及び政策目標を作成する。この戦略及  
び政策目標は、利害関係を有するすべての者にとって透明性を有するものとする。

第六条 資金供与及び資金上の奨励措置

資金供与  
及び資金  
上の奨励  
措置

- (1) 締約国は、エネルギー効率及びエネルギーに関係する環境保護に関する投資に資金を供与するための新  
たな取組方法及び方式（例えば、合併事業に関するエネルギーの利用者と外部の投資家との間の取決め  
（以下「第三者による資金供与」という。））の実施を奨励する。
- (2) 締約国は、エネルギー効率の向上及びエネルギー効率に関係する環境保護に関する投資を促進するた  
め、民間の資本市場及び既存の国際金融機関の利用並びにこれらへのアクセスの促進について努力する。
- (3) 締約国は、エネルギー効率の高い技術、製品及びサービスの市場への浸透を促進するため、エネルギー  
憲章に関する条約上及び自国が負っているその他の国際法上の義務に従い、エネルギーの利用者に対する  
財政上又は資金上の奨励措置をとることができる。締約国は、透明性を確保し及び国際市場の歪み<sup>ゆがみ</sup>を最小

ARTICLE 4

DIVISION OF RESPONSIBILITY AND COORDINATION

Each Contracting Party shall strive to ensure that energy efficiency policies are coordinated  
among all of its responsible authorities.

ARTICLE 5

STRATEGIES AND POLICY AIMS

Contracting Parties shall formulate strategies and policy aims for Improving Energy  
Efficiency and thereby reducing Environmental Impacts of the Energy Cycle as appropriate  
in relation to their own specific energy conditions. These strategies and policy aims shall  
be transparent to all interested parties.

ARTICLE 6

FINANCING AND FINANCIAL INCENTIVES

- (1) Contracting Parties shall encourage the implementation of new approaches and  
methods for financing energy efficiency and energy related environmental protection  
investments, such as joint venture arrangements between energy users and external  
investors (hereinafter referred to as "Third Party Financing").
- (2) Contracting Parties shall endeavour to take advantage of and promote access to  
private capital markets and existing international financing institutions in order to  
facilitate investments in Improving Energy Efficiency and in environmental protection  
related to energy efficiency.
- (3) Contracting Parties may, subject to the provisions of the Energy Charter Treaty and  
to their other international legal obligations, provide fiscal or financial incentives to  
energy users in order to facilitate market penetration of energy efficiency

エネルギー  
効率の  
高い技術  
の促進

に方法でこれらの措置をとるよう努力する。

第七条 エネルギー効率の高い技術の促進

- (1) 締約国は、エネルギー憲章に関する条約に従い、エネルギー効率が高くかつ環境上適正な技術並びにエネルギーに関係を有するサービス及び経営慣行についての商業上の取引及び協力を奨励する。
- (2) 締約国は、(1)に規定する技術、サービス及び経営慣行をエネルギー・サイクル全体にわたって使用することを促進する。

国内計画

第八条 国内計画

- (1) 締約国は、第五条の規定に従って作成した政策目標を達成するため、自国の状況に最も適したエネルギー効率に関する計画を作成し、実施し及び定期的に更新する。
- (2) (1)の計画には、次のような活動を含めることができる。
- (a) 意思決定の指針となる長期のエネルギー需給の見通しの作成
- (b) 実施した措置がエネルギー、環境及び経済に関して及ぼした影響についての評価
- (c) エネルギーを使用する機材の効率を向上させるための基準の決定及び貿易を歪めることを回避するためにこれらの基準を国際的に調和させる努力

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

technologies, products and services. They shall strive to do so in a manner that both ensures transparency and minimizes the distortion of international markets.

ARTICLE 7

PROMOTION OF ENERGY EFFICIENT TECHNOLOGY

- (1) Consistent with the provisions of the Energy Charter Treaty, Contracting Parties shall encourage commercial trade and cooperation in energy efficient and environmentally sound technologies, energy related services and management practices.
- (2) Contracting Parties shall promote the use of these technologies, services and management practices throughout the Energy Cycle.

ARTICLE 8

DOMESTIC PROGRAMMES

- (1) In order to achieve the policy aims formulated according to Article 5, each Contracting Party shall develop, implement and regularly update energy efficiency programmes best suited to its circumstances.
- (2) These programmes may include activities such as the:
- (a) development of long-term energy demand and supply scenarios to guide decision-making;
- (b) assessment of the energy, environmental and economic impact of actions taken;
- (c) definition of standards designed to improve the efficiency of energy using equipment, and efforts to harmonize these internationally to avoid trade distortions;

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

- (d) 民間の発意及び産業上の協力（合併事業を含む。）の発展及び奨励
  - (e) 経済的に実行可能かつ環境上適正な最もエネルギー効率の高い技術の利用の促進
  - (f) エネルギー効率の向上に関する投資のための革新的な取組方法（例えば、第三者による資金供与及び共同で行われる資金供与）の奨励
  - (g) 適当なエネルギー需給バランス表及びデータベース（例えば、エネルギー需要に関する十分詳細なデータ及びエネルギー効率の向上のための技術に関するデータを含むもの）の作成
  - (h) 助言及び相談を行う業務（公の又は民間の産業又は事業により行われる業務であつて、エネルギー効率に関する計画及びエネルギー効率の高い技術に関する情報を提供し並びに消費者及び企業を支援するもの）の創設の促進
  - (i) 熱電併給システム並びに地域において建物及び産業のために熱を生産しかつ供給するシステムの効率を高めるための措置に対する支援並びにこれらの促進
  - (j) 政策を作成し及び実施するための十分な資金及び職員を有するエネルギー効率に関する専門的な機関（適当な規模のもの）の設立
- (3) 締約国は、エネルギー効率に関する計画を実施するための制度上及び法律上の十分な基盤が存在することを確保する。

国際協力

第三部 国際協力

- (d) development and encouragement of private initiative and industrial cooperation, including joint ventures;
  - (e) promotion of the use of the most energy efficient technologies that are economically viable and environmentally sound;
  - (f) encouragement of innovative approaches for investments in energy efficiency improvements, such as Third Party Financing and co-financing;
  - (g) development of appropriate energy balances and data bases, for example with data on energy demand at a sufficiently detailed level and on technologies for Improving Energy Efficiency;
  - (h) promotion of the creation of advisory and consultancy services which may be operated by public or private industry or utilities and which provide information about energy efficiency programmes and technologies, and assist consumers and enterprises;
  - (i) support and promotion of cogeneration and of measures to increase the efficiency of district heat production and distribution systems to buildings and industry;
  - (j) establishment of specialized energy efficiency bodies at appropriate levels, that are sufficiently funded and staffed to develop and implement policies.
- (3) In implementing their energy efficiency programmes, Contracting Parties shall ensure that adequate institutional and legal infrastructures exist.

PART III

INTERNATIONAL COOPERATION

協力分野

第九条 協力の分野

締約国間の協力は、適当な形態をとることができる。あり得る協力の分野については、附属書に掲げる。

第四部 管理上の措置及び法的措置

憲章会議の役割

第十条 憲章会議の役割

- (1) 憲章会議はこの議定書に従って行うすべての決定は、この議定書の締約国であるエネルギー憲章に関する条約の締約国のみによって行われる。
- (2) 憲章会議は、この議定書の効力発生の後百八十日以内に、この議定書の実施状況を常時検討し及び促進するための手続（報告に関する義務を含む。）並びに前条の規定に基づく協力の分野を特定するための手続を採択するよう努力する。

第十一条 事務局及び財政

- (1) エネルギー憲章に関する条約第三十五条の規定に基づいて設立される事務局は、憲章会議に対し、この議定書に基づく憲章会議の任務の遂行に必要なすべての援助を与えるものとし、また、憲章会議が承認することを条件として、議定書の実施を支援するために随時必要とされる他の役務を提供する。

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

ARTICLE 9

AREAS OF COOPERATION

The cooperation between Contracting Parties may take any appropriate form. Areas of possible cooperation are listed in the Annex.

PART IV

ADMINISTRATIVE AND LEGAL ARRANGEMENTS

ARTICLE 10

ROLE OF THE CHARTER CONFERENCE

- (1) All decisions made by the Charter Conference in accordance with this Protocol shall be made by only those Contracting Parties to the Energy Charter Treaty who are Contracting Parties to this Protocol.
- (2) The Charter Conference shall endeavour to adopt, within 180 days after the entry into force of this Protocol, procedures for keeping under review and facilitating the implementation of its provisions, including reporting requirements, as well as for identifying areas of cooperation in accordance with Article 9.

ARTICLE 11

SECRETARIAT AND FINANCING

- (1) The Secretariat established under Article 35 of the Energy Charter Treaty shall provide the Charter Conference with all necessary assistance for the performance of its duties under this Protocol and provide such other services in support of the Protocol as may be required from time to time, subject to approval by the Charter Conference.

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

(2) この議定書から生ずる事務局及び憲章会議の費用については、締約国がその支払能力に従って負担する。この支払能力については、エネルギー憲章に関する条約附属書Bに定める方法に従って決定する。

第十二条 投票

(1) 次のことについて決定を行うためには、これらが決定される憲章会議の会合に出席しかつ投票する締約国の全会一致の合意を必要とする。

(a) この議定書の改正を採択すること。

(b) 第十六条の規定に基づいてこの議定書に加入することを承認すること。

締約国は、この議定書上憲章会議の決定を必要とするその他の事項についてコンセンサス方式により合意に達するようあらゆる努力を払う。コンセンサス方式により合意に達しない場合には、予算に関係しない事項についての決定は、当該決定を行う憲章会議の会合に出席しかつ投票する締約国の四分の三の多数による議決で行う。

予算に関する事項についての決定は、前条(2)に定める分担金の額が合計で分担金の総額の四分の三以上となる締約国の限定多数による議決で行う。

(2) この条の規定の適用上、「出席しかつ投票する締約国」とは、出席しかつ賛成票又は反対票を投ずるこの議定書の締約国をいう。もっとも、憲章会議は、締約国が通信によって決定を行うことができるようにするための手続規則について決定することができる。

(3) この条に規定する決定は、予算に関する事項について(1)に規定する場合を除くほか、締約国の単純多数の支持がない限り、無効とする。

(2) The costs of the Secretariat and Charter Conference arising from this Protocol shall be met by the Contracting Parties to this Protocol according to their capacity to pay, determined according to the formula specified in Annex B to the Energy Charter Treaty.

ARTICLE 12

VOTING

(1) Unanimity of Contracting Parties Present and Voting at the meeting of the Charter Conference where such matters fall to be decided shall be required for decisions to:

(a) adopt amendments to this Protocol; and

(b) approve accessions to this Protocol under Article 16.

Contracting Parties shall make every effort to reach agreement by consensus on any other matter requiring their decision under this Protocol. If agreement cannot be reached by consensus, decisions on non-budgetary matters shall be taken by a three-fourths majority of Contracting Parties Present and Voting at the meeting of the Charter Conference at which such matters fall to be decided.

Decisions on budgetary matters shall be taken by a qualified majority of Contracting Parties whose assessed contributions under Article 11(2) represent, in combination, at least three-fourths of the total assessed contributions.

(2) For purposes of this Article, "Contracting Parties Present and Voting" means Contracting Parties to this Protocol present and casting affirmative or negative votes, provided that the Charter Conference may decide upon rules of procedure to enable such decisions to be taken by Contracting Parties by correspondence.

(3) Except as provided in paragraph (1) in relation to budgetary matters, no decision referred to in this Article shall be valid unless it has the support of a simple majority of Contracting Parties.

エネルギー憲章に関する条約との関係

最終規定  
署名

(4) 地域的な経済統合のための機関は、投票に当たり、この議定書の締約国であるその構成国の数と同数の票を有する。もつとも、当該機関は、その構成国が自国の投票権を行使する場合には、投票権を行使してはならない。その逆の場合も、同様とする。

(5) 憲章会議は、この議定書に基づく締約国の財政上の義務の履行が持続的に遅滞する場合には、当該締約国の投票権の全部又は一部を停止することができる。

第十三条 エネルギー憲章に関する条約との関係

(1) この議定書とエネルギー憲章に関する条約とが抵触する場合には、抵触する限りにおいて、エネルギー憲章に関する条約が優先する。

(2) 第十条(1)及び前条(1)から(3)までの規定は、この議定書の改正であつてエネルギー憲章に関する条約に基づいて設置される憲章会議又は事務局に対して義務又は任務を課するものに関する憲章会議における投票については、適用しない。

第五部 最終規定

第十四条 署名

この議定書は、千九百九十四年十二月十七日から千九百九十五年六月十六日まで、リスボンにおいて、憲章及びエネルギー憲章に関する条約にその代表が署名した国及び地域的な経済統合のための機関による署名のために開放しておく。

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

(4) A Regional Economic Integration Organization shall, when voting, have a number of votes equal to the number of its member states which are Contracting Parties to this Protocol; provided that such an Organization shall not exercise its right to vote if its member states exercise theirs, and vice versa.

(5) In the event of persistent arrears in a Contracting Party's discharge of financial obligations under this Protocol, the Charter Conference may suspend that Contracting Party's voting rights in whole or in part.

ARTICLE 13

RELATION TO THE ENERGY CHARTER TREATY

(1) In the event of inconsistency between the provisions of this Protocol and the provisions of the Energy Charter Treaty, the provisions of the Energy Charter Treaty shall, to the extent of the inconsistency, prevail.

(2) Article 10(1) and Article 12(1) to (3) shall not apply to votes in the Charter Conference on amendments to this Protocol which assign duties or functions to the Charter Conference or the Secretariat, the establishment of which is provided for in the Energy Charter Treaty.

PART V

FINAL PROVISIONS

ARTICLE 14

SIGNATURE

This Protocol shall be open for signature at Lisbon from 17 December 1994 to 16 June 1995 by the states and Regional Economic Integration Organizations whose representatives have signed the Charter and the Energy Charter Treaty.

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

批准、  
受諾又は承  
認

第十五条 批准、受諾又は承認

この議定書は、署名国により批准され、受諾され又は承認されなければならない。批准書、受諾書又は承認書は、寄託者に寄託する。

加  
入

第十六条 加入

この議定書は、この議定書の署名のための期間の終了後は、憲章会議が承認する条件で、憲章に署名し、かつ、エネルギー憲章に関する条約の締約国である国及び地域的な経済統合のための機関による加入のために開放しておく。加入書は、寄託者に寄託する。

改  
正

第十七条 改正

- (1) 締約国は、この議定書の改正を提案することができる。
- (2) この議定書の改正案は、憲章会議による採択のために提案される日の少なくとも二箇月前に事務局が締約国に通報する。
- (3) 憲章会議が採択したこの議定書の改正は、事務局が寄託者に通報するものとし、寄託者が批准、受諾又は承認のためすべての締約国に提出する。
- (4) この議定書の改正の批准書、受諾書又は承認書は、寄託者に寄託する。当該改正は、締約国の少なくとも四分の三が批准書、受諾書又は承認書を寄託者に寄託した後三十日目の日に、当該改正を批准し、受諾

ARTICLE 15

RATIFICATION, ACCEPTANCE OR APPROVAL

This Protocol shall be subject to ratification, acceptance or approval by signatories. Instruments of ratification, acceptance or approval shall be deposited with the Depositary.

ARTICLE 16

ACCESSION

This Protocol shall be open for accession, from the date on which the Protocol is closed for signature, by states and Regional Economic Integration Organizations which have signed the Charter and are Contracting Parties to the Energy Charter Treaty, on terms to be approved by the Charter Conference. The instruments of accession shall be deposited with the Depositary.

ARTICLE 17

AMENDMENTS

- (1) Any Contracting Party may propose amendments to this Protocol.
- (2) The text of any proposed amendment to this Protocol shall be communicated to Contracting Parties by the Secretariat at least three months before the date on which it is proposed for adoption by the Charter Conference.
- (3) Amendments to this Protocol, texts of which have been adopted by the Charter Conference, shall be communicated by the Secretariat to the Depositary which shall submit them to all Contracting Parties for ratification, acceptance or approval.
- (4) Instruments of ratification, acceptance or approval of amendments to this Protocol shall be deposited with the Depositary. Amendments shall enter into force between

し又は承認した締約国の間で効力を生ずる。その後は、改正は、他の締約国が当該改正の批准書、受諾書又は承認書を寄託した後三十日目の日に当該他の締約国について効力を生ずる。

効力発生

第十八条 効力発生

(1) この議定書は、国若しくは地域的な経済統合のための機関（憲章の署名国であり、かつ、エネルギー憲章に関する条約の締約国であるもの）による十五番目の批准書、受諾書、承認書若しくは加入書の寄託の日の後三十日目の日又はエネルギー憲章に関する条約が効力を生ずる日と同じ日のいずれか遅い日に効力を生ずる。

(2) この議定書は、自己についてエネルギー憲章に関する条約が効力を生じている国又は地域的な経済統合のための機関であつて、この議定書が(1)の規定に従つて効力を生じた後この議定書を批准し、受諾し若しくは承認し又はこれに加入するものについては、当該国又は機関による批准書、受諾書、承認書又は加入書の寄託の日の後三十日目の日に効力を生ずる。

(3) 地域的な経済統合のための機関によつて寄託される文書は、(1)の規定の適用上、当該機関の構成国によつて寄託されたものに追加して数えてはならない。

留保

第十九条 留保

この議定書には、いかなる留保も付することができない。

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

Contracting Parties having ratified, accepted or approved them on the thirtieth day after deposit with the Depositary of instruments of ratification, acceptance or approval by at least three-fourths of the Contracting Parties. Thereafter the amendments shall enter into force for any other Contracting Party on the thirtieth day after that Contracting Party deposits its instrument of ratification, acceptance or approval of the amendments.

ARTICLE 18

ENTRY INTO FORCE

(1) This Protocol shall enter into force on the thirtieth day after the date of deposit of the fifteenth instrument of ratification, acceptance or approval thereof, or of accession thereto, by a state or Regional Economic Integration Organization which is a signatory to the Charter and a Contracting Party to the Energy Charter Treaty or on the same date as the Energy Charter Treaty enters into force, whichever is later.

(2) For each state or Regional Economic Integration Organization for which the Energy Charter Treaty has entered into force and which ratifies, accepts, or approves this Protocol or accedes thereto after the Protocol has entered into force in accordance with paragraph (1), the Protocol shall enter into force on the thirtieth day after the date of deposit by such state or Regional Economic Integration Organization of its instrument of ratification, acceptance, approval or accession.

(3) For the purposes of paragraph (1), any instrument deposited by a Regional Economic Integration Organization shall not be counted as additional to those deposited by member states of such Organization.

ARTICLE 19

RESERVATIONS

No reservations may be made to this Protocol.



エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

第二十条 脱退

- (1) 締約国は、この議定書が自国について効力を生じた後いつでも、寄託者に対し、この議定書から脱退する旨の書面による通告を行うことができる。
- (2) エネルギー憲章に関する条約から脱退する締約国は、この議定書からも脱退したものとみなす。
- (3) (1)の脱退が効力を生ずる日は、寄託者が脱退の通告を受領した後九十日目の日とする。(2)の脱退が効力を生ずる日は、エネルギー憲章に関する条約からの脱退が効力を生ずる日と同じ日とする。

第二十一条 寄託者

ポルトガル共和国政府は、この議定書の寄託者とする。

第二十二条 正文

以上の証拠として、下名は、正当に委任を受けて、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語及びスペイン語をひとしく正文とするこの議定書に署名した。この議定書の原本は、ポルトガル共和国政府に寄託する。

千九百九十四年十二月十七日にリスボンで作成した。

ARTICLE 20

WITHDRAWAL

- (1) At any time after this Protocol has entered into force for a Contracting Party, that Contracting Party may give written notification to the Depositary of its withdrawal from the Protocol.
- (2) Any Contracting Party which withdraws from the Energy Charter Treaty shall be considered as also having withdrawn from this Protocol.
- (3) The effective date of withdrawal under paragraph (1) shall be ninety days after receipt of notification by the Depositary. The effective date of withdrawal under paragraph (2) shall be the same as the effective date of withdrawal from the Energy Charter Treaty.

ARTICLE 21

DEPOSITARY

The Government of the Portuguese Republic shall be the Depositary of this Protocol.

ARTICLE 22

AUTHENTIC TEXTS

In witness whereof the undersigned, being duly authorized to that effect, have signed this Protocol in English, French, German, Italian, Russian and Spanish, of which every text is equally authentic, in one original, which will be deposited with the Government of the Portuguese Republic.

Done at Lisbon on the seventeenth day of December in the year one thousand nine hundred and ninety-four.

附  
属  
書

附属書 第九条に規定するあり得る協力の分野の一覧表（例示的であり、すべてを網羅したものではないもの）

エネルギー効率に関する計画の作成（エネルギー効率に関する障害及び可能性の特定を含む。）並びにエネルギーに関する表示及びエネルギー効率の基準の作成

エネルギー・サイクルが及ぼす環境上の影響についての評価

経済上及び法令上の措置の策定

技術移転、技術協力及び産業上の合弁事業（所有権に関する国際的な制度及び他の適用のある国際協定に従ったもの）

研究開発

教育、訓練、情報及び統計

外的な費用及び利益（特に環境上の費用及び利益）を考慮するための措置（例えば、財政上の措置その他市場に基づく手段をいい、取引可能な許可に係るものを含む。）の特定及び評価

エネルギーに関する分析及び政策の作成

エネルギー効率に関する可能性の評価

エネルギー需要に関する分析及び統計

法令上の措置の策定

資源に関する統合的な計画及び需要の管理

環境上の影響の評価（エネルギーに関する主要な事業計画に関するものを含む。）

エネルギー効率の向上及び環境上の目的のための経済上の手段の評価

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

ANNEX

ILLUSTRATIVE AND NON-EXHAUSTIVE LIST  
OF POSSIBLE AREAS OF COOPERATION PURSUANT TO ARTICLE 9

Development of energy efficiency programmes, including identifying energy efficiency barriers and potentials, and the development of energy labelling and efficiency standards;

Assessment of the Environmental Impacts of the Energy Cycle;

Development of economic, legislative and regulatory measures;

Technology transfer, technical assistance and industrial joint ventures subject to international property rights regimes and other applicable international agreements;

Research and development;

Education, training, information and statistics;

Identification and assessment of measures such as fiscal or other market-based instruments, including tradeable permits to take account of external, notably environmental, costs and benefits.

Energy analysis and policy formulation:

- assessment of energy efficiency potentials;
- energy demand analysis and statistics;
- development of legislative and regulatory measures;
- integrated resource planning and demand side management;
- Environmental Impact assessment, including major energy projects.

Evaluation of economic instruments for improving Energy Efficiency and environmental objectives.

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

炭化水素の精製、転換、輸送及び分配におけるエネルギー効率の分析

発電及び送電におけるエネルギー効率の向上

熱電併給システム

施設の構成部分（ボイラー、タービン、発電機等）

関連する施設の統合

建築部門におけるエネルギー効率の向上

断熱基準、受動的太陽熱利用及び換気

暖房及び空気調和システム

高い効率を有するバーナーであって窒素酸化物の排出量の少ないもの

測定に関する技術及び個別の測定

家庭用機器及び照明

地方自治体及び地域社会のサービス

地域暖房システム

ガスの効率的な供給システム

エネルギーの計画作成に係る技術

都市その他の関連する地域団体の間の提携

都市及び公共建築物におけるエネルギーの管理

廃棄物の処理及び廃棄物からのエネルギーの回収

産業部門におけるエネルギー効率の向上

合併事業

エネルギーの段階的利用、熱電併給システム及び廃熱の利用

エネルギーの検査

Energy efficiency analysis in refining, conversion, transport and distribution of hydro-carbons.

Improving Energy Efficiency in power generation and transmission:

- cogeneration;
- plant component (boilers, turbines, generators, etc);
- network integration.

Improving Energy Efficiency in the building sector:

- thermal insulation standards, passive solar and ventilation;
- space heating and air conditioning systems;
- high efficiency low NOx burners;
- metering technologies and individual metering;
- domestic appliances and lighting.

Municipalities and local community services:

- district heating systems;
- efficient gas distribution systems;
- energy planning technologies;
- twinning of towns or of other relevant territorial entities;
- energy management in cities and in public buildings;
- waste management and energy recovery of waste.

Improving Energy Efficiency in the industrial sector:

- joint ventures;
- energy cascading, cogeneration and waste heat recovery;
- energy audits.

運輸部門におけるエネルギー効率の向上

自動車の性能に関する基準

効率的な輸送基盤の整備

情報

啓発

データベース（アクセス、技術仕様及び情報システムに係るもの）

技術情報の普及、収集及び取りまとめ

行動に関する研究

訓練及び教育

エネルギー分野の経営者、公務員、技術者及び学生の交流

国際的な訓練課程の編成

資金供与

法的枠組みの作成

第三者による資金供与

合併事業

共同で行われる資金供与

Improving Energy Efficiency in the transport sector:

- motor vehicle performance standards;
- development of efficient transport infrastructures.

Information:

- awareness creation;
- data bases: access, technical specifications, information systems;
- dissemination, collection and collation of technical information;
- behavioural studies.

Training and education:

- exchanges of energy managers, officials, engineers and students;
- organization of international training courses.

Financing:

- development of legal framework;
- Third Party Financing;
- joint ventures;
- cofinancing.

エネルギー効率等に関するエネルギー憲章議定書

(参考)

この議定書は、エネルギー効率を高め、望ましくない環境上の影響を軽減するための政策上の原則等について定めたものである。